

2025 年 8 月度のボーイスカウト福岡第 14 団の報告について

1 カブ隊

○ 日時：8 月 31 日（日） 福岡市動植物園

活動内容：植物園で自然観察を行う

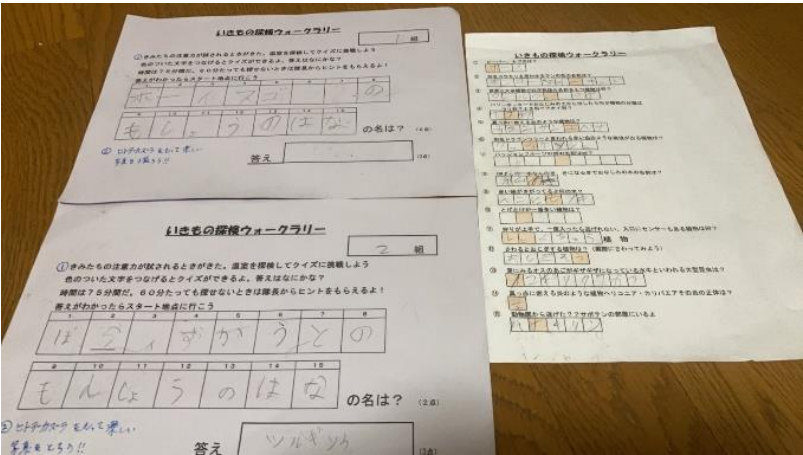
活動目的：好奇心と冒険心をたかめる。フェアプレーの精神と正義感を養う

ボーイスカウトの活動は真夏の猛暑でも行います。しかし熱中症対策も欠かせません。

そこで、いつも取得が難しい自然観察を植物園の温室で行うことになりました。今日のどこでもドアの行き先はブラジルです。いろんな花や植物の観察の旅に行きました。

用意されたのはウォークラリーの問題。温室の中の植物のヒントをもとに植物の名前を探します 15 個の植物の名前がわかると、ようやくテーマのクイズに挑戦できます。

「ボーイスカウトのもんしょうのはなの」名は何？こたえはユリでした。難しかったけれど、いつもスカウトが身に着けている制服などにあるマークの由来を知ることでもでき、知らない事への興味や知識を増やすきっかけになったのでしょうか。



午後からはウォークラリーの時に気になった植物をじっくり観察する活動です。うさぎ（3 年）しか（4 年）くま（5 年）と課題が違います。世代にあった観察を行いました。子どもたちの観察方法が様々でした。

歩き回りながら気が付いたら観察する、スマートフォンで撮影してそれを見ながら机上で書く。シートを広げじっくり観察するなど自分のスタイルでじっくり取り組むことができました。

最後は観察したことやスケッチした絵を皆に見せながらの発表会。自分で調べた事、疑問や予想を話すスカウトたちは堂々と発表することができました。



2 ボーイ隊

○ 日時：8月6日（水）～9日（金） 第13回福岡県キャンポリー 東区照葉

福岡県連盟創立100周年を記念して、福岡県連盟キャンポリーが東区照葉で開催されました。今回は、街の光が映える中でのキャンプでした。これまでの自然と違った環境の中で開催されたキャンプを体験しました。

*：キャンポリーとは、県内のボーイスカウト年代のスカウトが一堂に会し、仲間との友情を育み、スカウト精神を高め合う場です。





- 日時：8月10日（日） 韓国台湾交流会 オイスター西日本研修センター
韓国スカウト、台湾スカウトと国際交流会に参加しました。



3 ビーバー隊

- 日時：8月2日（土） 夜の動物園 於 福岡市動物園

福岡市動物園で毎年開催されている「夜の動物園」にビーバー隊として久しぶりに参加しました。昨年ゾウがやってきた動物園は、とても賑わっていました。スカウト達は、「動物園探検隊」として、隊長から示された調査ミッションをしっかりとクリアできました。各スカウトの着眼点に面白さを感じつつ、集会を経るごとに「観察と推理」のスキルが高まっていることも同時に感じる事ができ、指導者としても楽しむことができました。

今、人と動物の関係は難しい局面にきています。ゾウやキリンなど、世界中で個体数が減り絶滅が危惧されている動物種が多数ある一方で、わが国ではクマやイノシシなど、人との共生に関してきわめて現実的な課題に直面する動物種も顕在化しています。今回のプログラムが、スカウトにとって「人と地球によりよい未来を」考えるきっかけであってほしいと指導者として願います。



○ 日時：8月24日（日）サバイバルキャンプごっこ 於 加也コミュニティセンター

先日、ボーイスカウト福岡県連盟創立百周年事業の一環として第13回福岡県キャンポリー（野営大会）2025（通称13FC）が開催されました。この酷暑により予定されていたプログラム「ビーバー・カブデー」は延期となったため、残念ながらビーバー隊はキャンポリーに参加できませんでした。せめてもの思いで、ビーバー隊は「シマ（志摩・島）でサバイバルキャンプ」ごっこをしました。

「楽しい夏休みに浜辺でボートに乗って遊んでいたら、波でボートが流されてしまい、無人島である『シマ』にたどり着いた」というストーリーでキャンプは始まり、スカウト達は、まずはシマを探検し、テント作りや釣りに必要なものを探します。今回のキャンプ生活で必要となるアイテムをたくさん見つけたスカウト達は、休む間もなく「テント設営」にとりかかります。ここでは先ほどの探検で見つけた新聞紙を使い「ティピーテント」を作ります。テント設営ができれば、次は釣りに出かけます。新聞紙とシマの探検で拾った釣り糸（タコ糸）と小枝で釣竿を作って、ペットボトル釣りに挑戦します。



いろいろなことにチャレンジするとお腹も空いてきます。ちょうどお昼になったので、お待ちかねの「キャンプ飯」です。シマの野営地でチキンラーメンと「じゃがりこ」のポテトサラダを食べ、スカウト達にご満悦です。その後、夏休みの思い出作りですいか割りをしました。



キャンプ飯とすいかでしっかり腹ごしらえをしたスカウトたちは、名残りを惜しみながらもシマから帰ろうとしますが、乗ってきたボートはしっかり係留していなかったので気づいたら沖に流されてしまっていました。仕方ないので「脱出用マシーン」(段ボールキャタピラ)に乗り込んでシマからの脱出に挑戦します。無事に全員脱出でき、楽しい思い出とともにサバイバルキャンプは幕を閉じました。

ビーバー隊における活動の企画においては、年代の特性に合わせて、スカウトの想像力をかき立てるような工夫を凝らしています。楽しい「遊び」の中で、材料や道具を工夫して工作をしたりすることでスカウトスキルを修得できるような活動を積極的に取り入れています。今回のキャンプごっこの中で得た知識やスキルは、非常の際にも活用できるものもあります。いつ何時も、何事にも対応できるスカウトとして「そなえよつねに」のモットーを大切に、人と地球の未来のために役に立つ人に育ててほしいと指導者として願います。